

石川県七尾児童相談所長 様

一時保護所の子どもたちの生活・支援に関する  
第三者評価  
**報告書**

(令和 6 年度 2 月)

一般社団法人 日本児童相談業務評価機関



# 一般社団法人 日本児童相談業務評価機関

## 一時保護所の子どもの生活・支援に関する 第三者評価の実施方法

一般社団法人 日本児童相談業務評価機関は以下の方法で石川県七尾児童相談所一時保護所の子どもの生活・支援に関する第三者評価を実施した。

### ●評価の方法

2018 年度厚生労働省調査研究事業「一時保護された子どもの生活・支援に関する 第三者評価の手引き（案）」（三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング）を基に日本児童相談業務評価機関が改訂した「一時保護された子どもの生活・支援に関する第三者評価項目 J-Oschis2024 年度版」を用いて、次の方法で実施した。

#### 1 各所アンケート

##### ・ 自己評価アンケート

64 項目について、一時保護所職員それぞれに自己評価を行ったうえで所全体のとりまとめ評価を実施し、とりまとめ評価を所としての自己評価の結果とした。職員それぞれの評価ととりまとめ評価を評価員が送付を受けた。

##### ・ こどもアンケート

アンケート実施期間内に当該一時保護所へ入所中のこどもに対してアンケートを実施した。回答を集計し、結果を評価者が送付を受けた。

#### 2 事前準備資料

評価に必要なと思われる次の資料を施設から徴し、評価者が精査した。

事業概要（福祉行政報告例）、組織図、業務分掌、勤務表、時間外勤務実績、年次有給休暇実績、平面図、事業計画（行事計画、研修計画等）、子どもに対する説明資料（権利ノート、生活のしおり、日課表、学習時間割表） 等

### 3 実地調査

- (1) 申し送り会議や観察会議への立ち合い
- (2) 施設見学
- (3) 全体状況について聴き取り(所長、マネジメント層より)
- (4) 新人職員ヒアリング(経験年数の少ない保育士、児童指導員、心理士 等)
- (5) 一時保護所入居時対応のロールプレイ
- (6) 相談部門ヒアリング(相談部門のマネジメント層)
- (7) フィードバック

### 4 報告書の提出

#### ●評価項目の評価

ガイドラインの評価基準に従い、各評価項目は、S～C の4段階で評価した。

評価ランクの考え方

| 評価ランク | 評価基準                                             |
|-------|--------------------------------------------------|
| S     | 優れた取り組みが実施されている<br>他一時保護所が参考にできるような取り組みが行われている状態 |
| A     | 適切に実施されている<br>よりよい業務水準・状態、質の向上を目指す際に目安とする状態      |
| B     | 取り組みが十分でない<br>「A」に向けた取り組みの余地がある状態                |
| C     | 重点的に改善が求められる、または実施されていない                         |

## — 目次 —

|                                         |    |
|-----------------------------------------|----|
| 一時保護所の子どもの生活・支援に関する<br>第三者評価の実施方法 ..... | 2  |
| 目次 .....                                | 4  |
| <b>総評</b>                               |    |
| 総評 .....                                | 6  |
| 第Ⅰ部 子ども本位の養育・支援 .....                   | 9  |
| 第Ⅱ部 一時保護の環境及び体制整備 .....                 | 12 |
| 第Ⅲ部 一時保護所の運営 .....                      | 15 |
| 第Ⅳ部 一時保護所における子どもへのケア・アセスメント .....       | 18 |
| <b>アンケート結果</b>                          |    |
| こどもアンケート結果 .....                        | 22 |

## 総評

(2024 年 12 月 3 日(火)～4 日(水) 実地調査実施分)

## 総 評

全国に僅かしかいない少人数定員の一時保護所の中で、積極的に第三者評価の受審をされることについては、よりよい一時保護所を作り、石川県の子どもを守りたいと言う職員の皆様の強い思いを感じながら第三者評価に臨ませていただきました。

### 【優れている点】

○令和6年3月にこども家庭庁より示された一時保護所ガイドラインでは「家庭における養育環境と同様の養育環境」において養育されるように強く求められています。七尾児童相談所一時保護所(以下、「七尾児相一時保護所」)は、その考えに則る一時保護所運営要領を定め、その理念には「家庭的な雰囲気大切に」という言葉を掲げるとともに、その実践において、一時保護所の定員10人で年平均2.1人/日の状況特性を生かし、子ども一人ひとりに丁寧に寄り添いケアや支援を行っていることは、とても素晴らしいと思います。

特に、日勤夜勤も行う職員の当番制食事調理や手作り制作による環境整備など生活場面の随所において、心の温かさや安心が感じられる細やかな取り組みがあり、子どもは職員との豊かな関係の中で不安と緊張感を和らげ、穏やかな気持ちを持つことができていると思います。また、衣類等についても既に持参品の着用やスマホ使用を一定の条件下に基づき認めるなど先駆的な取り組みも見られます。

これらの取り組みにより、子どもの一時保護所・児童相談所への安心感と信頼感は醸成され、その結果として、今後の援助展開における相互の関係性向上が期待されるものであり、全国の一時保護所の参考になると思います。

### 【今後に向けた課題】

○一時保護所の子どもの権利擁護については、児童福祉法や子どもの権利条約に基づくところで、全面改正された「一時保護所ガイドライン」及び内閣府より発令された「一時保護施設の設備及び運営に関する基準」の中で、その取り組みの実施が強く求められているところです。

七尾児相一時保護所が定めている「一時保護所運営要領」の「一時保護所の運営について」に掲げられた理念にも、権利擁護についての取り組みを明確に示しています。しかし、その実践においては、子どもの安全安心を守ることに同じように権利擁護を強く意識している、さらには意識の醸成を図っているとは言い難い状態にあると思います。

この状態の背景は、もちろん一時保護所の取り組みに課題がありますが、それだけではないとも思慮しております。特に、後述する七尾児童相談所(以下、「七尾児相」)の持つ地域特性に基づく勤務体制が大きく考慮されるところです。

一時保護所で取り組めるものとして、外部研修の参加や講師招聘による職場内研修などとそのための研修計画の策定は急務です。

○職員アンケートに、宿直職員が女性のみであり、特に男子を保護している際の不安の訴えが多くありました。この点については、内閣府令やガイドラインにおいて、配置職員の性別についての指示はなされていませんが、男子の保護背景や保護所の生活場面によっては、女性忌避や男性対応必須の可能性もあり、夜間の男性職員不在は女性職員にとっての安全かつ安心な職場環境の確保といった観点だけでなく、突発的な対応が求められる際に女性職員だけでは十分な対応ができない事態が生じる危険性もあるため、改善が求められます。

また、相談部門との連携において、夜間緊急入所時の面接出勤対応と宿直業務ローテーションのいずれにおいても部門職員対応の恒常化などは、地域特性をしてやむを得ない状況であろうかと思慮する所ではありますが、いずれの場合も、相談部門職員の日勤業務にも影響を及ぼすものとなっています。その結果として、地域児童に対して十分なソーシャルワークを行うことの妨げとなっていますので、一時保護所、児童相談所、石川県担当部局それぞれにおいて、改善すべき課題として強く認識をしていただきたいと思います。

この点は、保護児童のトラブル発生時における相談部門職員への対応を恒常化させる一因にもなっていることは、相談部門職員との面談で感じたところです。一時保護所としての課題を、状況を認知していない相談部門職員の介入による解決することは、子どもが自身の問題について保護所職員が向かい合うことを避けていると感じさせ、深い信頼関係を作る機会を失するとともに、一時保護所職員の当事者意識の低下を招きかねません。保護所で起きたことは、まずは保護所内で解決するという意識醸成は、一時保護所における子どもの権利擁護を高める上で重要な点であり、この対応に必要な職員体制づくりにかかる担当部局による人事配置検討が求められるところです。

さらに看護師の配置については、職員の意見聴取において、20 年ほど前に保健師が一時保護所に 2 年間配属したことがあったのみとの話がありました。看護師や心理担当職員の配置は、内閣府令でも明確に示しており、早急な対応が求められます。

以上 2 点の課題については、石川県の一時保護所条例の制定作業に係る部面も大きいと思慮するところであり、本評価がその作業に役立つことを願います。

| 取組み主体            | 課題、取組むべき事項、具体的な取組み内容の提案 等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 職員               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童福祉法、子どもの権利条約、改正ガイドラインや内閣府令等をはじめとする法律や権利擁護や行動観察や行動診断、トラウマやグリーフケアなどを学習するための研修参加や自己研鑽に取り組み一時保護職員としての専門性の一層の向上を図っていただきたいと思います。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 児童相談所<br>(一時保護所) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員が協力して専門性を高める学習ができる環境を構築していただきたいと思います。</li> <li>・一時保護部門の長が主宰する一時保護ガイドラインの 9 に示す内容に沿った観察会議を、援助方針会議とは別に実施することをご検討ください。</li> <li>・職員配置に関しては、既に例年、県に対して要望をしているとお聞きましたが、今回の評価も踏まえながら、緊急入所や夜間勤務体制などを考慮した適正な人事配置となる要望をしていただきたいと思います。</li> <li>・一時保護所職員研修計画を策定いただきたいと思います。</li> <li>・災害発生に関しては、自然災害である令和 6 年能登半島地震での緊急対応の経験を有しており、これらは他の災害発生時にも有効であるとともに全国の一時保護所で共有すべき貴重な情報もあると思料しますので、今後のマニュアル整備に生かすとともに発信にも取り組んでいただきたいと思います。</li> </ul> |
| 設置自治体            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・夜間の勤務体制を含め、子どもの権利を十分に擁護するための取り組みを可能とする一時保護所職員の配置と体制の構築をご検討ください。</li> <li>・石川県中央児童相談所との人事異動や合同開催による一時保護所職員の研修等、職員同士の交流を積極的に行い、双方に情報交換できる環境を整備することをご検討ください。</li> <li>・令和 6 年に施行された「一時保護施設の設備及び運営に関する基準」の第 18 条に示されている通り、看護師・心理療法担当職員の配置が必要です。職員配置について早急にご検討いただきたいと思います。</li> <li>・人員配置などについて条例化作業を進め、計画的な体制整備を行っていただきたいと思います。</li> </ul>                                                                                             |
| 国                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・本評価において、少人数定員となる児童相談所一時保護所は、その地域状況の特性に応じる中で、求められる設備や人事勤務体制の状況などが厳しい状況にありました。この点については他の小規模一時保護所も同様の状況ではないかと推察します。よって、小規模一時保護所についての実態調査の必要性が高いと思慮します。</li> <li>・七尾児相一時保護所では、夜間に女性職員が 2 人(内 1 名は 24 時間電話対応兼務)で子どもをケアしなければならず、特に男子を保護した際に不安を感じている状況でした。夜間は子どもの気持ちが不安定になることも多く、複数の職員が子どもを見守り、ケアする必要があります。このように夜間における子どもの観察や支援の重要性に鑑み、複数の職員による夜勤体制を可能とする予算措置を行っていただきたいと思います。</li> </ul>                                                  |



## 第Ⅰ部 子ども本位の養育・支援

| 総 評<br>現状と課題（良い点、改善が必要な点）、今後の取組みに関する提案 等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>【優れている点】</p> <p>○安心・安全な生活環境を整えて子どもたちを温かく迎える職員の姿勢は非常に優れており、それによって子どもたちが穏やかな生活を送ることができています。また、個々の子どものニーズに応じた関わりがなされており、子どもが安心感・安全感・信頼感を持つことができる支援を行っていることは、高く評価できます。</p> <p>○職員が日常的な会話を通じて子どもの気持ちや思いを酌み、それを尊重した関わりを行っていること、また今年度から意見箱を設置し、子どもの意見を聴くチャンネルを増やす努力をされていることは評価できます。</p> <p>○家族以外との通信・面会通信や私物の持込に関する制限が必要最小限となっており、特に当然のように制限されがちな通信機器の持込、使用について、子どもの置かれた状況やその時々の一時的保護所の状況に応じて認める取り組みは、他の一時保護所の参考になる例として評価できます。</p> <p>【今後に向けた課題】</p> <p>○さらにより良い一時保護所とするためには、きめ細やかな生活のケアをすることによって結果的に達成できている点を、子どもの権利擁護という明確な目的意識のもと実践することが必要であると考えます。すなわち、安心・安全な生活環境を確保することは、それ自体虐待等を受けてきた子どもたちの権利を回復し、擁護することに結びつきますが、一時保護所が持つ権利擁護の機能という視点が欠けていると、習慣化してしまった行動制限を「制限」と捉えることなく無意識的に継続したり、「安心・安全の確保」を理由とするパターンリスティックなルールを必要以上に設定したりすることに繋がる可能性があります。七尾児相一時保護所においては、全般的に上記の視点が弱い印象を受けました。</p> <p>評価項目 No.1 は、安心・安全な生活環境の確保という点では高評価を付けることができますが、今後はそれを子どもの権利擁護の視点に基づいて実践してほしいという期待を含め、あえて厳しく評価させていただきました。</p> <p>○「一時保護所のしおり」には、子どもの権利条約の紹介や子どもに権利があることを明記していますが、具体的な内容は指導事項や禁止事項の説明となっているため、子どもの権利条約の理念や、子どもの意見表明権を重視している改正児童福祉法の趣旨を踏まえた改訂が必要であると考えます。そして、一時保護所の職員全員が、入所する子どもに対し、しおりを用いながら子どもの権利について説明できるようになることが望ましいです。</p> <p>○意見表明支援員の導入が遅れているようですが、準備を進めておられるとのことですので、今後充実した取り組みが行われることを期待します。</p> |

○一時保護の開始や解除、親子面談の結果や今後の見通し、無断外出・外泊時の振り返り等、重要な場面における説明や意見聴取、フィードバックは全般的に児童福祉司に委ねられており、一時保護所の職員としては「子どもが言い出せば聴く」「子どもから質問されたら説明する」という関与にとどまっているようです。子どもが児童福祉司に伝える意見や気持ちと、生活の場にいる一時保護所職員に伝えるそれとは、必ずしも同じとは限りません。また、支援する大人がそれぞれの立場で伝え、聴き取ることで、子どもの揺れる意見や気持ちを適時にキャッチすることが可能になります。今後は、一時保護所職員も意識的に子どもの意見聴取を行い、その意見を活かせるよう取り組む必要があります。また、充実した意見聴取、フィードバック等を行うため、研修等により技術的な向上を図ることが望ましいと考えます。

○被措置児童等虐待の防止や子ども同士の権利侵害行為の防止についても、子どもの権利擁護の観点から常に意識しておく必要がありますが、入所率が非常に低いという特徴や、入所する子どもが全般的におとなしいという地域柄も相まって、そもそも想定されていないような印象を受けました。一時保護所に来る子どもたちの多くが日常的に権利侵害を受けてきた背景を持つことからすると、どのような場所においても、誰からも権利を侵害されない存在であることを意識的に伝えることが、子どものエンパワメントに繋がると考えます。今後は、どのような行為が被措置児童等虐待に該当するのか、実際に大人から子どもへの、または子ども同士の権利侵害行為が生じた場合にどのように対応するかなど、研修等も取り入れながら検討されることを期待します。

<各評価項目の評価>

| 項目    | 評価項目                                                        | 評価結果 |
|-------|-------------------------------------------------------------|------|
| No.1  | 一時保護の目的に即した理念・基本方針となっているか                                   | B    |
| No.2  | 子どもの権利について、子どもに対して適切に説明されているか                               | B    |
| No.3  | 子どもの意見等が受け止められ、活かされる場所になっているか                               | B    |
| No.4  | 意見表明支援員の仕組みがあるか                                             | C    |
| No.5  | 子どもから聴取した意見等に対してフィードバックしているか                                | B    |
| No.6  | 一時保護の開始にあたり、子どもに対して適切に説明しているか                               | B    |
| No.7  | 一時保護期間中に、現状や今後の見通しについて説明し、子どもの意向を十分聞いているか                   | B    |
| No.8  | 一時保護の解除について、子どもに対して適切に説明しているか                               | B    |
| No.9  | 行動制限や、家族以外の人との通信・面会に関する制限は適切に行われているか                        | A    |
| No.10 | 個別支援は適切に行われているか                                             | A    |
| No.11 | 個別対応は適切に行われているか                                             | A    |
| No.12 | 合理的な理由なく私物の持ち込みを制限していない                                     | A    |
| No.13 | 被措置児童等の虐待防止に努めるとともに、発生時の対応は適切に行われているか                       | C    |
| No.14 | 暴力・暴言・いじめ・差別的な発言など、子ども同士での権利侵害の防止に努めるとともに、発生時の対応は適切に行われているか | C    |
| No.15 | 思想や信教の自由の保障が適切に行われているか                                      | A    |
| No.16 | 性的マイノリティの子どもがいることを前提とした生活環境や関わりなどの準備をしているか                  | B    |
| No.17 | 子どもとの関わりにおいて、子どもが安全感・安心感・信頼感を持てる養育・支援を行っているか                | S    |
| No.18 | 子どものエンパワメントにつながる養育・支援を行っているか                                | A    |
| No.19 | 子どもからの聞き取り等にあたり、子どもへの配慮や説明などが適切に行われているか                     | B    |

## 第Ⅱ部 一時保護の環境及び体制整備

| <div>総 評</div> <div>現状と課題（良い点、改善が必要な点）、今後の取組みに関する提案 等</div>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>【優れている点】</p> <p>○子どもの安心、安全を守るのが一時保護所の大前提であるため、生活時間や空間に制限が伴うことがあります。しかし、それを感じさせないほどの生活環境が作られています。例えば、一時保護所内のあちこちに職員手作りの装飾が貼られ、入所中の子どもがホッとできる雰囲気醸し出されていました。初めて一時保護所に来た子どもにもとても安心できる環境が作られていました。</p> <p>○一時保護所と児童相談部門、心理部門は同一敷地内の建物内にあり、相互の連絡、情報把握は取りやすい環境にあり、さらに経験年数の長い職員が多いことで職員間は安定しチームとして運営できています。朝の引継ぎには児童相談課長が毎朝参加し、子どもの状況が詳しく話され情報共有の場となっていました。また、一時保護所から子どもの状況等は何らかの形で担当児童福祉司や担当心理司に伝わる形がとられています。</p> <p>【今後に向けた課題】</p> <p>○複数人数定員の居室は保護児童の実人数から、個室として運用されています。一時保護所内の環境整備同様、居室内も1人で落ち着ける空間としての改善が望まれます。今後、改修の予定が見込まれる際には、完全個室化の計画を検討し、より良い個室支援の充実を目指してください。</p> <p>○正規職員が1人しかいないことで必然的に管理者的役割を担うことになっています。しかし、業務内容が明確化されておらず、業務内容が日々の伝達事項や目の前に起こった事案の解決に向けた動きに終始しています。設置自治体に職員人数の拡充を求めることも必要ですが、まずは業務内容を整理し、日常的な業務を行うとともに、他部署との連携や一時保護所内の運営等を担う一時保護所内でのリーダー的役割が求められます。そのことは一時保護所設備運営基準第20条1項2項にも記載されており、正規職員には管理者あるいは指導教育担当職員として、こども家庭庁長官が指定する者が行う研修またはこれに準ずる研修を受けさせる必要があります。</p> <p>○職員のヒアリングやアンケートから、男性職員が学習支援員1人ということ、男性に宿直業務がないこと、支援の中心を女性のみで担っていることは、特に夜間において不安感が強く表れています。年間の保護人数を考えると夜間体制としても厳しい面もあると思いますが、夜間支援や労務の観点からも宿直ではなく夜勤を目指す等、改善が望まれます。体制が整うまでは、日中の行動観察から夜間に不穏な状態が見込まれる時など、夜間の対応人数を遅出勤務等で増やすなど、できるだけ安全を確保できる工夫が必要です。現在は、本来一時保護所職員が担う職務を児童相談所本体に委ねている部分もありますので、一時保護所の職員体制を整えることで一時保護所の支援も充実し、また児童相談部門や心理部門にかかる負担も軽減されることを期待します。</p> |

○職員の体制と研修については、職員アンケートからも会計年度任用職員が主となる職員体制であることや職員の育成、資質向上の取り組みが不足とあげられていました。設備運営基準や一時保護ガイドライン、「はじめて一時保護所に着任する職員のためのハンドブック」等がどの程度、職場内で周知され、浸透しているのか支援の内容から見えてきませんでした。会計年度任用職員が多いとはいえ、研修体系も不十分です。外部の研修に行くことは時間的、物理的にハードルが高いかもしれませんが一時保護所での内部研修の取り組みが求められます。まずは設備運営基準やガイドラインを理解し、一時保護所の専門性を理解した職員が一時保護所の中に必要です。専門性をもった職員が所内研修を行うことで職員一人ひとりの育成や指導が可能となります。経験値に頼った技術論だけではなく、理論を伴った理念を全職員で共有し、一時保護所職員の専門性を向上させる取り組みが必要です。

○正規職員、会計年度任用職員に限らず、一時保護所に入所している子どもたちに関わる大人全員が理念を共有することは必須です。特に一時保護所の職員は、生活のケアのみが業務ではなく、一時保護所の職員としてのやらなければならない職務を理解する必要があります。例えば、子どもにいつもと違う様子が見られた時に、どのような支援を行うのか一時保護所として検討し、子どもの背景や特性、ケースワークの動向を理解した上で、職員の側からの積極的なアプローチを行う必要があります。行動観察についても児童福祉の視点や子どもの発達特性を理解すること、または児童相談、心理部門との連携は必須ですが一時保護所で完結すべき部分を他部署に委ねてしまっている部分もたくさん見られました。一時保護所としての職務を理解することで役割分担が明確になります。

○「優れている点」に記載した通り、一時保護所部門と相談支援部門、心理部門は円滑なチーム運営ができています。引き続き、入所児童の動向を踏まえたケースワークの進捗状況やそれに伴った一時保護所での支援方針の見直しなど、3者が対等な立場で連携をすることが大切です。そのため、一時保護所の職員全員が、入所している目の前の子どものケースワークに自分たち一時保護所の職員が密接に関わっていること、そのことによって子どもの最善の利益につながることを理解し、子どもの支援について各部門に積極的に情報提供することに努めていただきたいと思います。

○一時保護所の支援を充実させるためには職員の体制や一時保護所職員としての自覚も必要ですが、同時に警察を含め外部の関係機関との連携は必須です。中でも一時保護所の生活の中では子どもが不定愁訴を訴えることがよくあります。安定した一時保護期間を過ごすために健康観察や医療との連携は大切です。また、対応困難児童や支援方針の方向性の決定には相談部門との連携はもとより、一時保護所としての積極的な関係機関との連携が求められます。

○一時保護施設の設備及び運営に関する基準の第18条において、看護師は必置となっています。20年前ほど前は配置があったとのことですが、現在は配置がありません。健康上配慮が必要な子どもの受け入れや入所している子どもの健康観察など一時保護所において看護師の役割は大きいと考えます。

また、心理療法担当職員についても同じです。生活支援の中で気になる言動や問題行動に対し、心理的視点を入れることによって、より多角的に行動観察ができ一時保護所の支援を充実させることができます。どちらも早急な対応が必要です。

<各評価項目の評価>

| 項目    | 評価項目                                                | 評価結果 |
|-------|-----------------------------------------------------|------|
| No.20 | 一時保護所としての設備運営基準を遵守し、更に質を向上させる努力をしているか               | B    |
| No.21 | 一時保護所は、個別性が尊重される環境となっているか                           | A    |
| No.22 | 一時保護所内の生活環境が適切に整備されているか                             | A    |
| No.23 | 管理者や指導教育担当職員それぞれの役割が明確になっており、その責務が全うされているか          | B    |
| No.24 | 一時保護所として、必要な適切な職員体制が確保されているか                        | C    |
| No.25 | 一時保護所として、適切な夜間職員体制が確保されているか                         | C    |
| No.26 | 情報管理が適切に行われているか                                     | A    |
| No.27 | 職員の専門性の向上及び意識共有のための取組が適切に行われているか                    | C    |
| No.28 | 一時保護所がチームとして運営できているか                                | A    |
| No.29 | 児童福祉司や児童心理司等との連携が適切に行われているか                         | B    |
| No.30 | 職場環境としての法令順守や環境改善に取り組んでいるか                          | B    |
| No.31 | 医療機関との連携が適切に行われているか                                 | C    |
| No.32 | 警察との連携が適切に行われているか                                   | C    |
| No.33 | 子どもの養育・支援を充実させるために、外部の団体や専門家等、必要な関係機関との連携が適宜行われているか | C    |

### 第Ⅲ部 一時保護所の運営

| 総 評<br>現状と課題（良い点、改善が必要な点）、今後の取組みに関する提案 等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>【優れている点】</p> <p>○保護された子どもへの「家庭における養育環境と同様の養育環境」の提供について、職員が一丸となって行っており、保護児童がいない時も環境整備などを率先して行うなど、安心して暮らせる一時保護所にしたいという思いとその行動力は評価できます。</p> <p>○食事について、「一時保護施設の設備及び運営に関する基準」では、「調理は、あらかじめ作成された献立に従って行わなければならない。ただし、少数の子どもを対象として家庭的な環境の下で調理するときは、この限りでない。」と示されています。七尾児相一時保護所は、少数児童の入所が多い状況にありながら、栄養士が献立を作成した上で、その日の炊事担当職員が調理をしており、温かく心がこもった食事が提供されています。また、食事を提供する際には陶器の食器が使用されていました。府令の求めと家庭的な環境の保持を両立している点も、他の一時保護所の参考になると思います。</p> <p>○レクリエーションについては、マンガや児童書などの図書や卓上ゲームなどの玩具、遊具のある園庭やバスケットボールゴールを2基設置する運動室もあり、整えられた環境を有しています。</p> <p>○衣類については、原則を私物の持ち込みとし、持ち込みが困難な子どものみに貸出衣類を提供しており、既にガイドラインの求めに応じる体制が取られています。今後も、現状の体制を継続してください。</p> <p>【今後に向けた課題】</p> <p>○生活面についての入浴は、大型のユニットバスを使用した個別入浴であり、快適さが高く確保されています。しかし、入浴日は隔日であり、入浴できない日についてはシャワー浴対応が原則となっています。入浴は、子どもが一人きりの時間と空間を有することができる保護所の生活内で限られた機会であり、子どもの疲れた心と体を癒すことにつながりますので、全日確保が必要だと考えます。所内で今一度ご検討ください。</p> <p>○漫画や玩具の購入については、子どもの意見を聞く多様な機会を設けることと十分な予算確保が必要です。</p> <p>○貸出衣料については、子ども自らが選べる対応が望ましく、そのための衣料品の購入にかかる十分な予算確保が必要です。</p> <p>○学習支援については、非常勤職員1名で対応し、時間割も原則的なものは有しながらも、その時々の入所児童に応じる内容を取り入れ、園庭での写生や興味のある学習科目への対応を行っています。しかし、小学生から高校生までの学習指導を1名で行うことは困難であり、タブレット端末を活用した学習などICTの利用が望まれます。また、原籍校との連携については、子どもの学習支援だけでなく心理的な支援につ</p> |

ながることも期待されますので、積極的な活用が望まれます。

○子どもの家族等に関する情報提供等や家族との面会の機会については、児童相談所の相談部門との連携において行われるものではありませんが、子どもの最善の利益を考慮する意味において一時保護所職員は、子どもの気持ちの代弁者でもあり、この点は子どもの権利擁護につながる重要なポイントです。この点を、今後より一層強く意識して取り組んでいただきたいと思います。

○性的問題については、一時保護所のしおりに記載はありますが、十分ではありません。この問題は、加害児童、被害児童の入所や保護所内での発生等様々な状況が想定されます。また、性教育についての取り組みが必要となりますが、従来の教育手法とは異なる包括的性教育の研究発表や実践も多くなされています。性的問題については、職員全員が知見や対応を共有できるマニュアルや研修等の体制を整える必要があります。

○他害についての対応は、職場アンケートに女性職員のみで対応する場面での不安の記述が多くあり、まずは、他害対応が不十分な職員体制の在り方として捉えなければならない課題です。特に、一時保護所のみが機能している夜間や土日祝日、年末年始などは、その対応の困難度が著しく高くなるとともに、職員自身のケガを招く可能性が高くなる環境であることは憂慮すべきで状況であると思料します。

○自傷については、職員の対応について、全体として共有されている考え方や対応マニュアルがありませんので、具体的な支援的対応に関する研修やマニュアル作成が求められます。

○無断外出については、その行動におけるケガなど発生は、最も避けなければならない事案です。その点を回避するための防止対策において、子どもの行動制限が過剰になるような取り組みは慎重な検討が必要です。よって、ケガの発生を積極的に防止するためには、想定される経路における安全配慮も重要です。子どもが安全な道を見出せる工夫についての現在の状況の検討が重要です。

また、無断外出した子どもの行為についての関わりについては、主に担当福祉司があたっているようですが、一時保護所中に起きたことであり、一時保護所職員として子どもの状態に応じた態度や言葉を示すことも重要です。

○重大事件に係る触法少年への対応は、職員体制の充実について引き続き自治体に要求することは勿論ですが、まずは職員の研修と居室等の整備の選考が期待されます。触法少年への心理的な支援他に関する研修や居室の見直しなどできるところから始めるべきであると思料します。

○親族をなくした子どものグリーフケアについては、その子どもにどのように寄り添い関わればよいかを理解する研修が必要です。また、自死家族を目撃した子どもの関わりなどにおいては、職員自身の心的負担感も高くメンタルヘルスを守るための学びも大切です。

○障がい児や健康上配慮を要する子どもに対する対応については、現行、第2部で記載した看護師の不在も含め、十分な体制ではありません。今後、受け入れの可能性も視野に入れ、現状の体制で対応できるよう所内でのシミュレーションが求められます。

○一時保護所の運営・業務に関する基本的な対応方針や手順やマニュアル等は作成をされていますが、ガイ



ドラインや一時保護施設の設備及び運営に関する基準に基づく改訂を行う必要があります。特に、独自性の高いマニュアルを職員でプロジェクトチームを組むなどして作成することは、現場の状況に即することができるマニュアルになるとともに、職員の情報共有と専門性や意識の向上が可能となります。また、これと同時に、事業計画の策定や目標設定も一連の作業として並行していくことは、業務の効率化とともに、一貫性の高い一時保護業務の展開が可能となりますので、ご検討ください。

<各評価項目の評価>

| 項目    | 評価項目                                                        | 評価結果 |
|-------|-------------------------------------------------------------|------|
| No.34 | 緊急保護は、適切に行われているか                                            | A    |
| No.35 | 一時保護所における生活面のケアは、適切に行われているか                                 | A    |
| No.36 | レクリエーションのための環境やプログラム等が適切に提供されているか                           | A    |
| No.37 | 食事が適切に提供されているか                                              | S    |
| No.38 | 子どもの衣服は適切に提供されているか                                          | A    |
| No.39 | 子どもの睡眠は適切に行われているか                                           | A    |
| No.40 | 子どもの健康管理が適切に行われているか                                         | A    |
| No.41 | 子どもの教育・学習支援が適切に行われているか                                      | B    |
| No.42 | 未就学児に対しては適切な保育を行っているか                                       | A    |
| No.43 | 親子関係再構築支援の視点をもって、家族等との面会や、家族等に関する情報提供等が子どもに対して適切に行われているか    | C    |
| No.44 | 子どもの性的問題に対して、適切な対応が行われているか                                  | B    |
| No.45 | 他害や自傷行為を行う可能性のある子どもに対して、適切な対応を行っているか                        | B    |
| No.46 | 無断外出を行う子どもに対して、適切な対応を行っているか                                 | B    |
| No.47 | 重大事件に係る触法少年に対して、適切な対応を行っているか                                | C    |
| No.48 | 身近な親族等を失った子どもに対して、適切な対応を行っているか                              | B    |
| No.49 | 障害児(発達障害、知的障害、身体障害など)を受け入れた場合には、適切な対応、体制確保が行われているか          | B    |
| No.50 | 健康上配慮が必要な子どもを受け入れる場合には、適切な対応・体制確保が行われているか                   | B    |
| No.51 | 災害発生時の対応は明確になっているか                                          | A    |
| No.52 | 感染症の予防に努めるとともに、発生時の対応が明確になっているか                             | A    |
| No.53 | 一時保護所の運営・業務に関する基本的な対応方針や手順はマニュアル等(安全計画、業務継続計画等)にして明確になっているか | B    |
| No.54 | 一時保護所の年度単位での事業計画の策定や目標設定を行っているか                             | C    |
| No.55 | 一時保護所としての質の向上を行うための仕組みがあるか                                  | C    |
| No.56 | 相談種別に関わらず、多くの子どもが虐待を受けてきた背景を踏まえて適切な対応ができる体制が確保されているか        | B    |

#### 第Ⅳ部 一時保護所における子どもへのケア・アセスメント

| 総 評<br>現状と課題（良い点、改善が必要な点）、今後の取組みに関する提案 等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>【優れている点】</p> <p>○子どもの行動観察はすべての生活場面を通じて行われています。行動観察の結果は日々の子どもの行動として記録され子どもの状況を職員で共有できるようになっています。</p> <p>【今後に向けた課題】</p> <p>○一時保護所の大きな役割の1つは行動観察、行動診断です。生活のケアは安心・安全を守る上で絶対の必要条件ですが、そのことが一時保護職員の一義的な職務ではありません。とはいえ生活を共にすることで見えてくる子どもの姿や心情は一時保護所の職員しか見ることができない大切な部分でもあり、そのため、より丁寧な行動観察をもって行動診断をしていくことが一時保護所職員の職務の柱となります。その行動診断をもって援助方針会議に出席し、子どもの様子を伝えるのみに留まらず 援助方針の決定に様々な提案を行うことができます。まずこの点について、職員の共通認識としていただきたいと思います。</p> <p>○担当児童福祉司、児童心理司が面接を実施した前後または保護者との面会前後には、児童福祉司、児童心理司から情報収集した上で、一時保護所職員の視点で子どもの心情の変化を把握し、行動観察を行うとより細やかな行動診断に繋がりますので、実践していただきたいと思います。</p> <p>○受理・判定・援助方針会議には、児童相談所の所長、課長、児童福祉司、児童心理司、他保健師などの関係者が一堂に会し、一時保護所からも子どもの状況などを伝え情報の共有が図られていました。</p> <p>しかし、職員アンケートの結果にもありますが、アセスメントや支援方針の決定に際し一時保護所としてその判断に加わっている意識が低い様子がうかがえ、会議についても一時保護所として情報伝達のみ場となっていないか気になります。一時保護所の立場から援助方針決定に際し、より積極的に関わる必要があります。</p> <p>○観察会議は様々な職員からの情報を得て、一時保護所内における支援方針についての確認や、支援の方向性の変更、見直しとともに行動診断を行う場とされています。行動診断は保護所機能の中核でもあることから、観察会議においては一時保護所が開催し、児童相談部門や心理部門が参加する形態をご検討ください。</p> <p>○一時保護所からの退所にあたっては、帰宅するにしてもまた施設等に措置されるにしても子どもたちにとっては一時保護所の生活を挟んでの再スタートです。保護され一時保護所で職員と共に生活する中で、専門的視点で行動観察され、そのことによって子ども自身の特性や課題に対しより良い対応策の提案ができます。提案はその子どもを取りまく大人に共有され、保護される前より子どもの生活は生きやすいものになります。</p> <p>このように一時保護所での生活は退所後の生活に大きく影響し、その提案を児童相談部門を通じて学校や保護者とも共有する必要があります。</p> |

<各評価項目の評価>

| 項目    | 評価項目                                          | 評価結果 |
|-------|-----------------------------------------------|------|
| No.57 | 適時、子どもや子どもの家庭に関する情報等が相談部門と共有されているか            | B    |
| No.58 | 総合的なアセスメントや支援方針の決定に際して、一時保護所としてその判断に加わっているか   | B    |
| No.59 | 一時保護中に、子どもの変化に応じた個別ケアの見直しや、援助方針の見直しの提案が行えているか | B    |
| No.60 | 一時保護中の子どもについて、行動観察が適切に行われているか                 | B    |
| No.61 | 行動観察を基に適切な行動診断が行われている                         | B    |
| No.62 | 行動診断(アセスメント)に基づく支援を行っている                      | B    |
| No.63 | 一時保護中の子どもの所有物について、適切に保管されているか                 | A    |
| No.64 | 一時保護所からの退所にあたり、関係機関等に対し、必要な情報が適切に提供されているか     | C    |



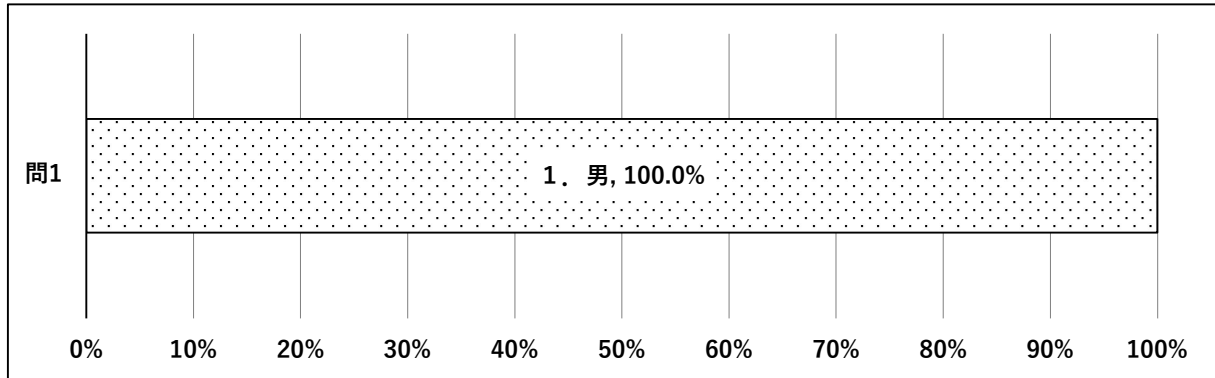
# こどもアンケート結果

(2024 年 10 月実施)

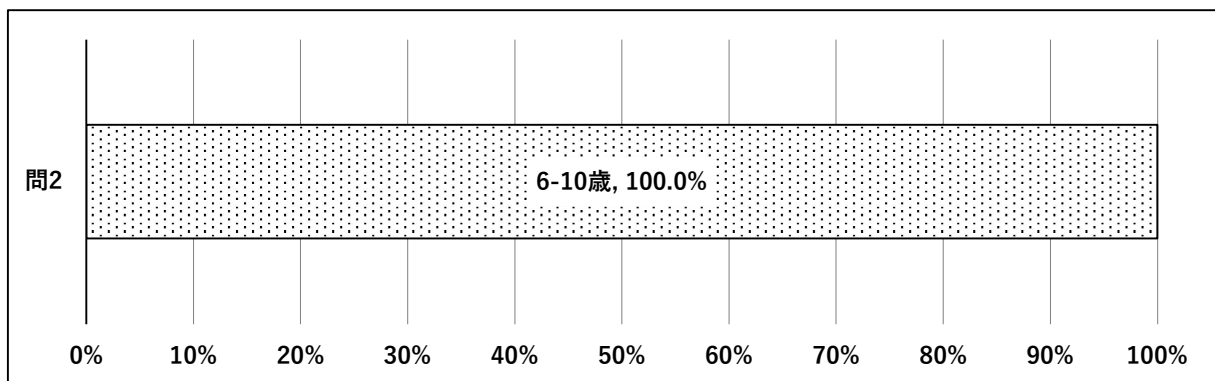
対象：上記期間内に一時保護所へ入所中の子ども

回答者数：1人

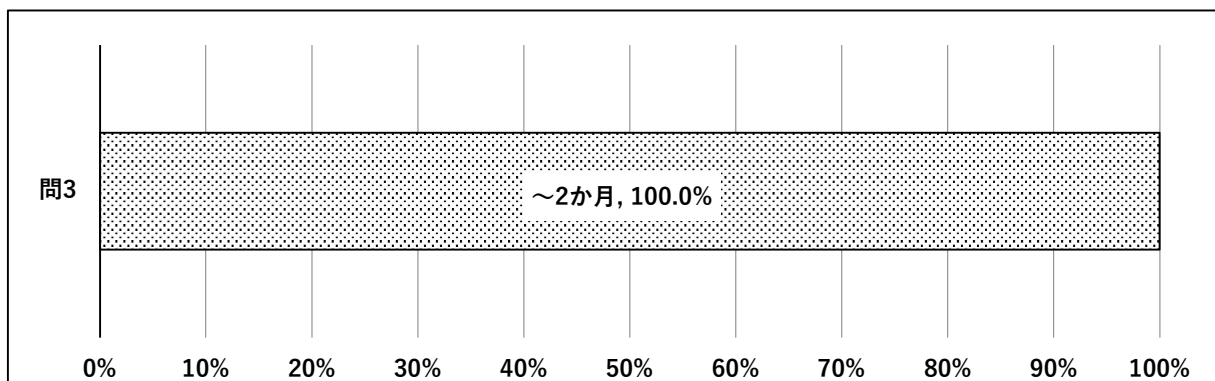
問1 性別は。



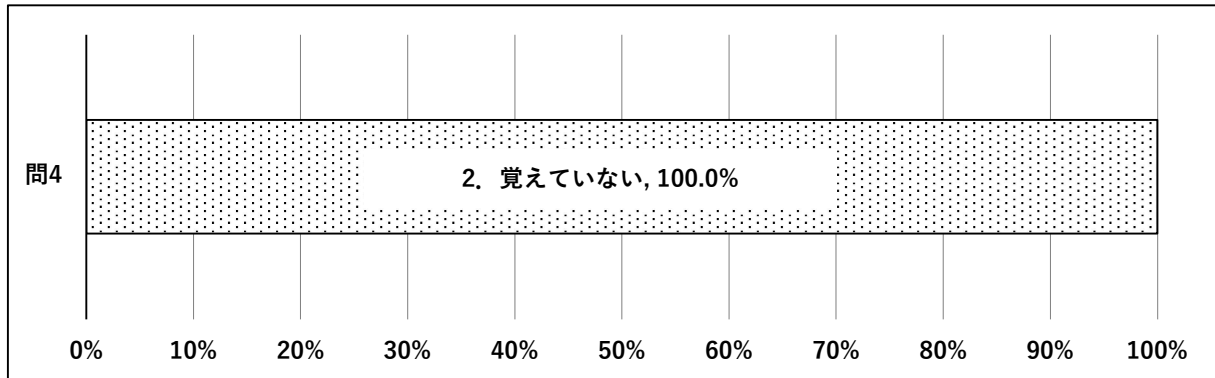
問2 年齢は。



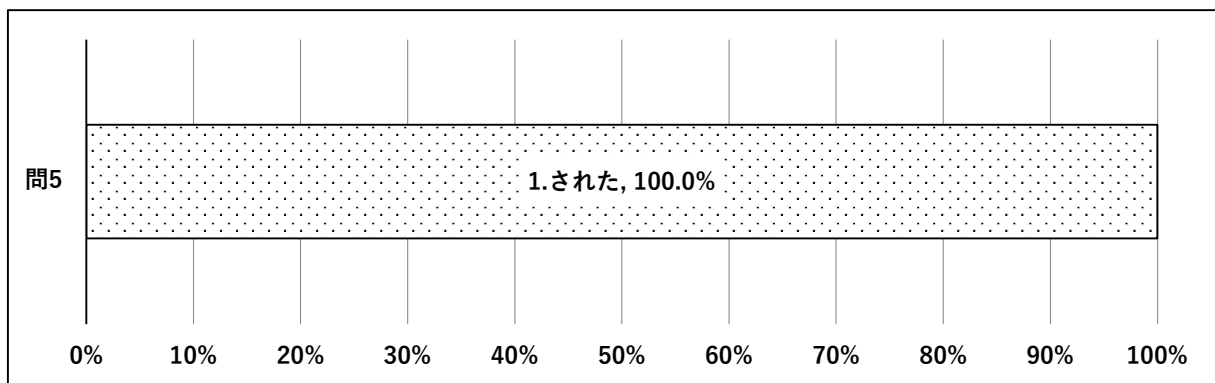
問3 ここ(一時保護所)に来た日から今日で何日目ですか。



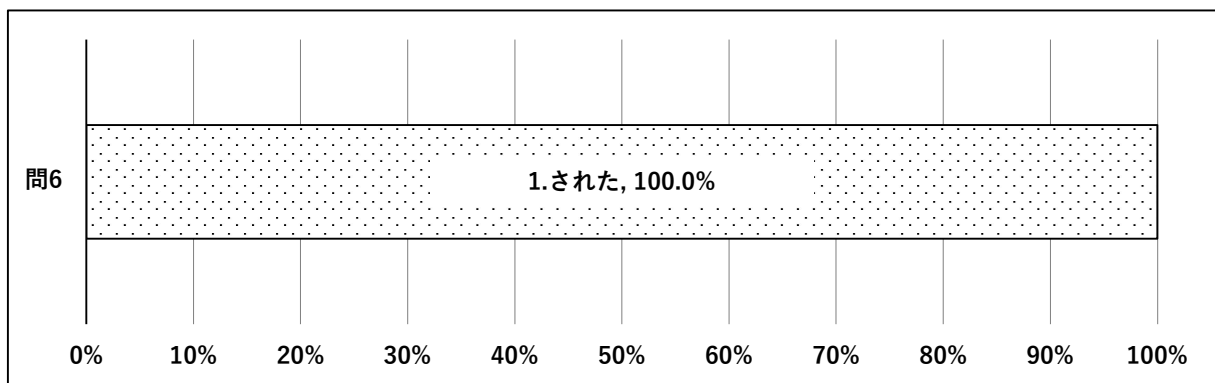
問4 ここに来る前に一時保護所がどのような所なのか説明されましたか。



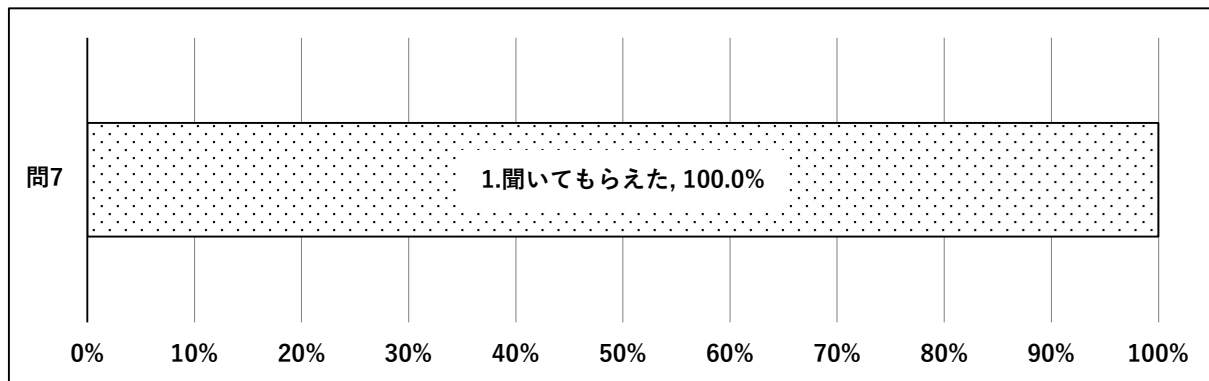
問5 あなたがなぜここで生活することになったのか、その理由を説明されましたか。



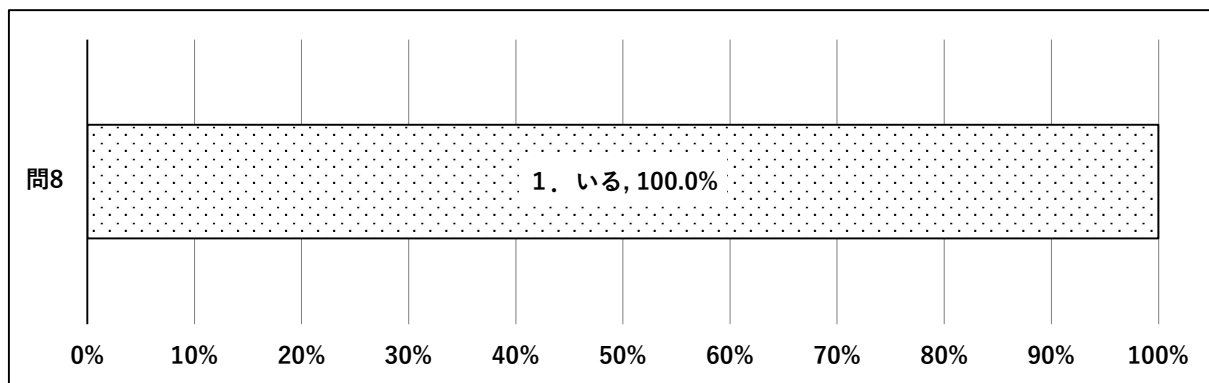
問6 ここには、だいたいいつまでいなければならないのか、今どのような状況なのか、担当の人から話をされましたか。



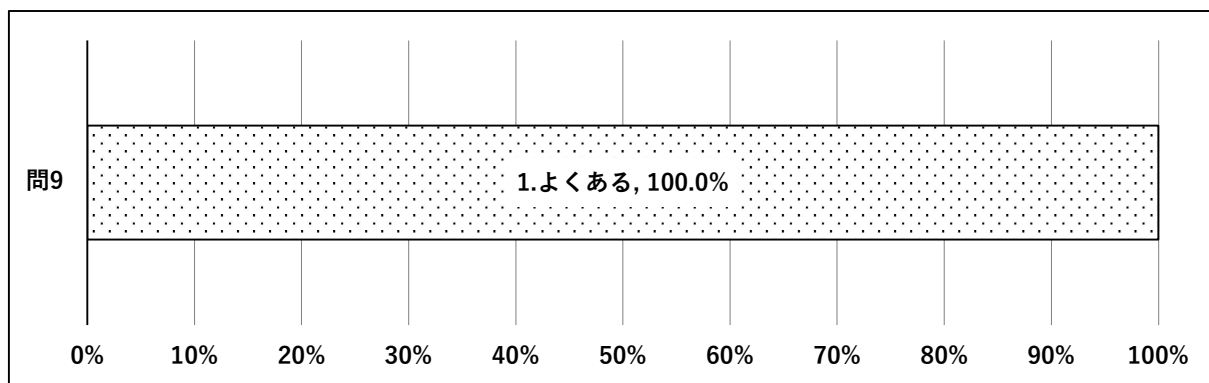
問7 あなた自身のこれまでのことや今後どうしたいか、職員に聞いてもらえましたか。



問8 この職員や児童相談所の人で、あなたの話をよく聞いてくれる人はいますか。

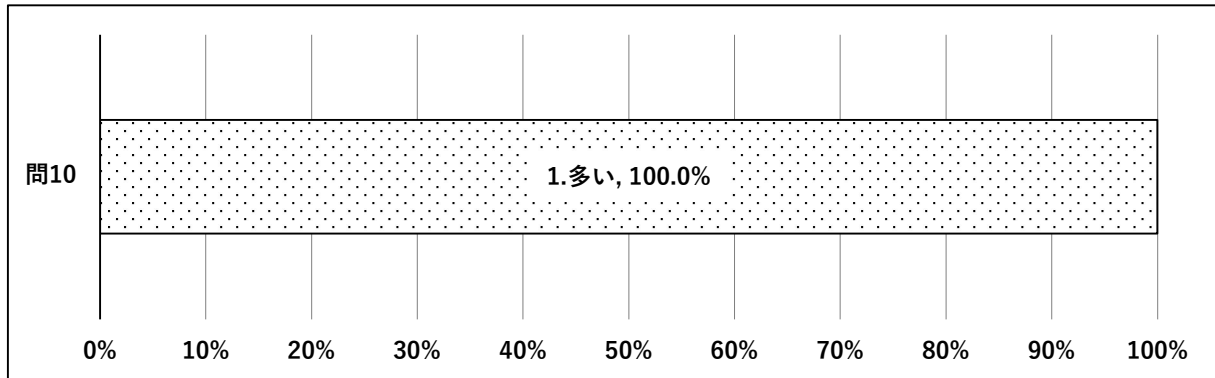


問9 この生活で、職員の人に、大切にされていると感じることはありますか。

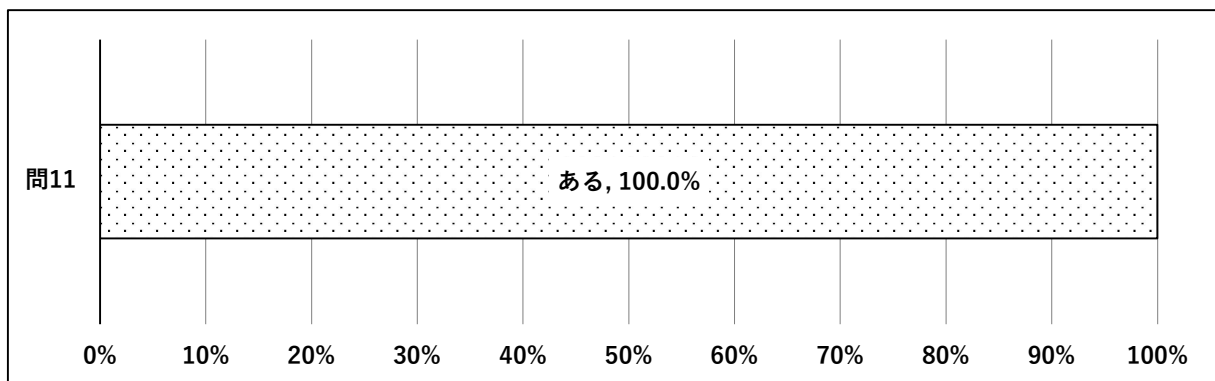




問 1 0 自由に過ごせる時間は多いですか。



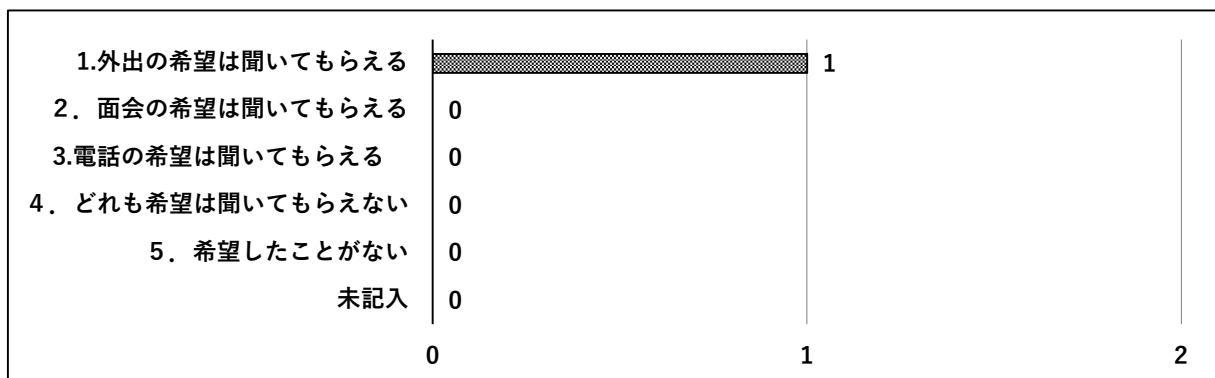
問 1 1 自由時間で楽しいことはありますか。



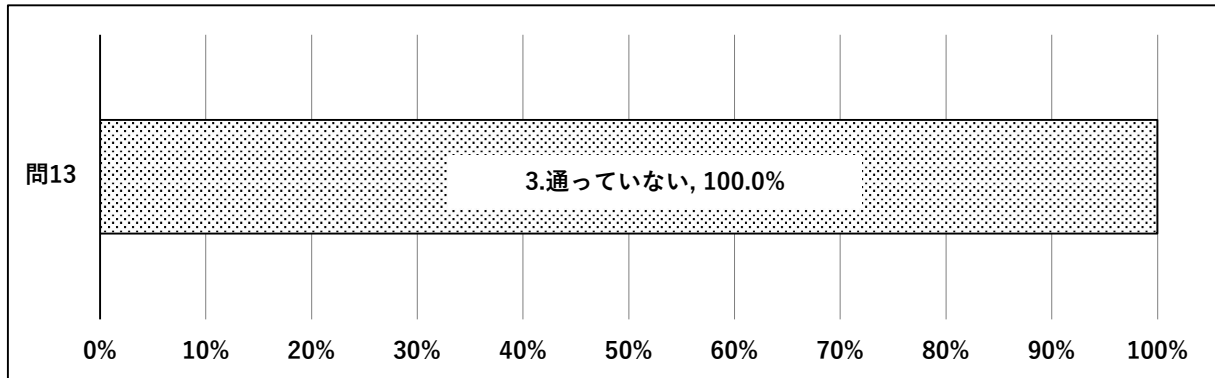
(自由時間で楽しいことについて)具体的にどのようなことですか。

|                 |
|-----------------|
| 具体的に            |
| ・ウルトラマン・ソフトブロック |

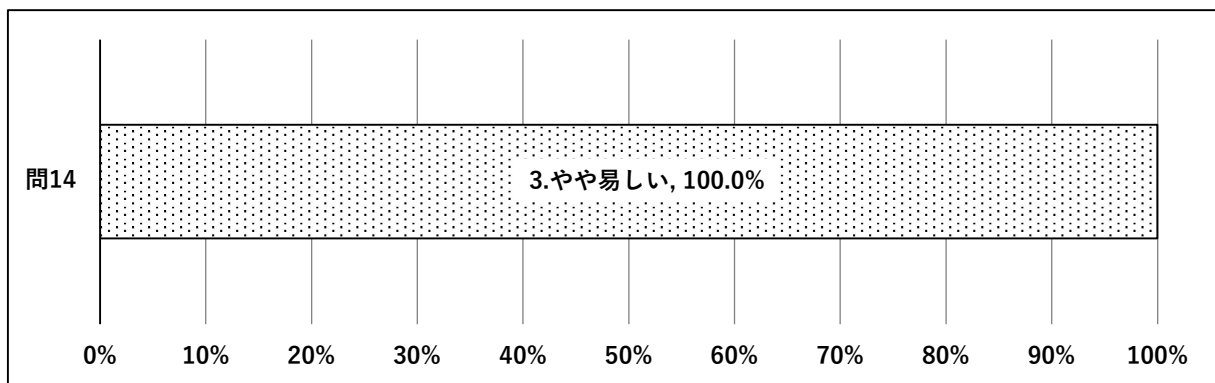
問 1 2 外出や面会、電話など、あなたがしたい時にできていますか。(複数回答可)



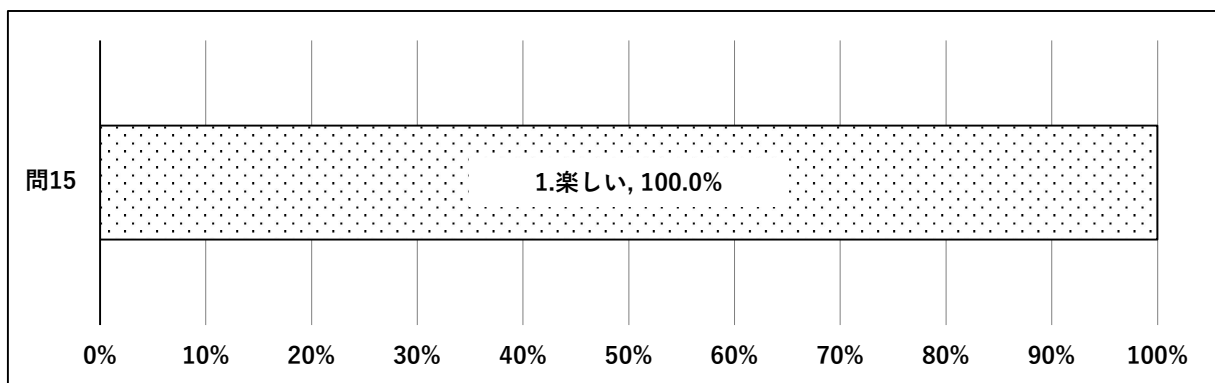
問 1 3 ここから学校に通えていますか。



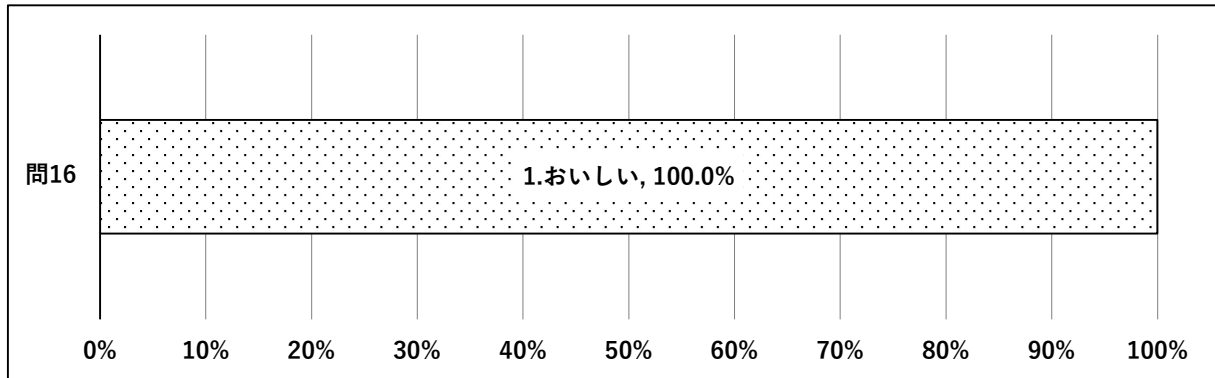
問 1 4 ここで学習している内容は今まで通っていた学校での学習に比べて難しいですか。



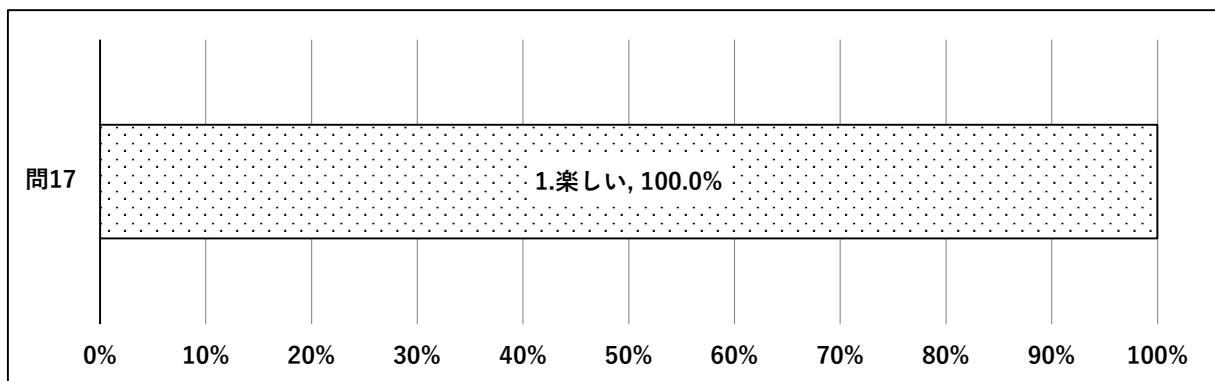
問 1 5 学習時間以外の活動(午後の活動等)は楽しいですか。



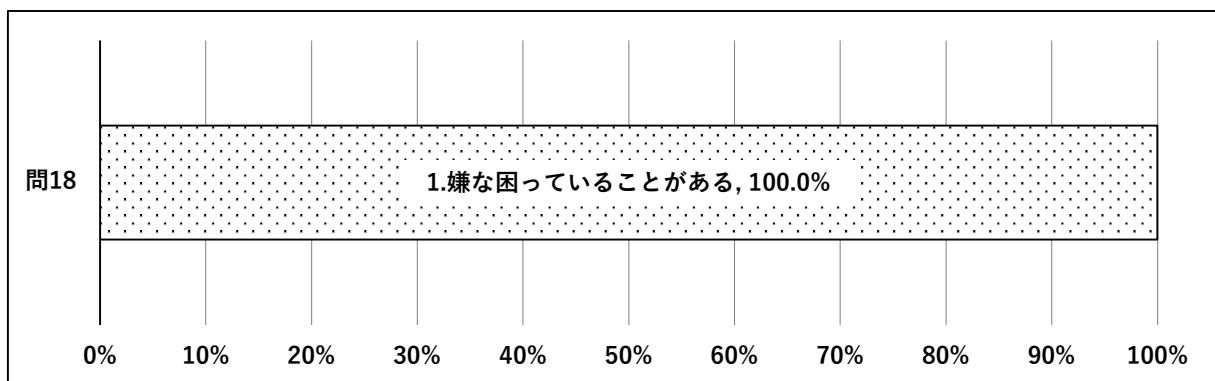
問 1 6 食事はおいしいですか。



問 1 7 食事の時間は楽しいですか。



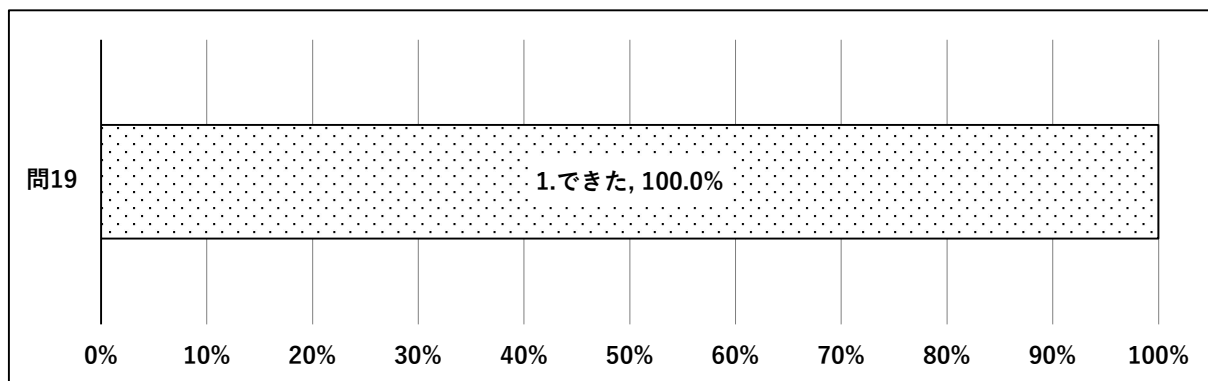
問 1 8 ここでの生活で嫌なことや困っていることはありますか。



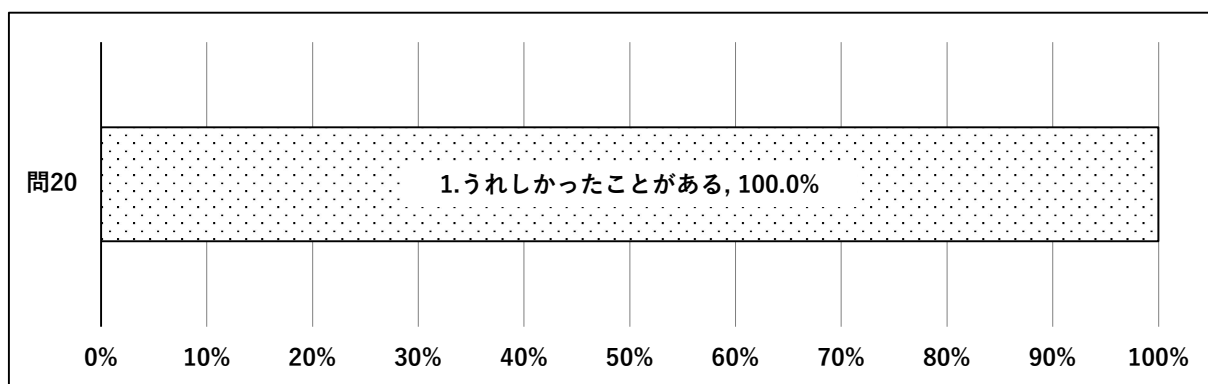
(嫌なことや困っていることについて)具体的にどのようなことですか。

|                 |
|-----------------|
| 具体的に            |
| ・考えすぎちゃう(いやなこと) |

問 1 9 不安なことや困ったことなどがあった時に職員に相談できましたか。



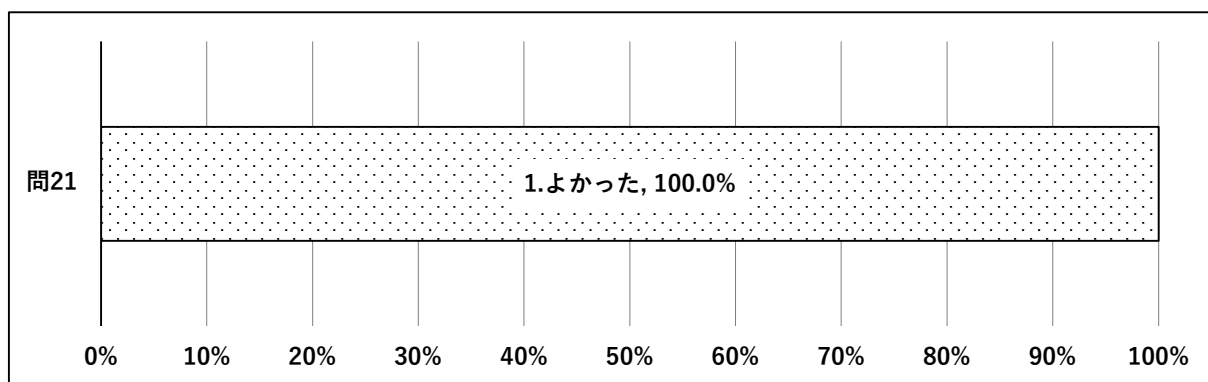
問 2 0 ここでの生活でうれしかったことはありますか。



(うれしかったことについて)具体的にどのようなことですか。

|                 |
|-----------------|
| 具体的に            |
| ・やさしい人たちがいっぱいいた |

問 2 1 ここでの生活(全体をとおして)はどうでしたか。



問 2 2 ここでの生活で変えてほしいことや、こうなればいいなぁと思うことがあれば書いてください。

|               |
|---------------|
| 具体的に          |
| ・おもちゃがふえてほしい！ |